

**平成22年度第1回  
生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨**

○日時：平成22年6月24日（木） 10:00～12:00

○場所：地域国際学習センター3階 304教室（学習相談室）

○議題：【審議事項】

- ・前回の生涯学習教育研究センター運営委員会議事要旨の確認について
- ・平成22年度年度計画の推進について
- ・生涯学習教育研究センター運営委員の協力の在り方について
- ・平成21年度予算執行報告および平成22年度予算配分案について

【報告事項】

- ・生涯学習教育研究センター研究紀要の発行について
- ・平成22年度センター事業の進捗状況について
- ・第50回琉大21世紀フォーラムについて

○出席者：井上講四（生涯学習教育研究センター長）、背戸博史（生涯学習教育研究センター教授）、後藤武俊（生涯学習教育研究センター講師）、安藤由美（法文学部教授）、伊波美智子（観光産業科学部教授【代理出席】）、青木一雄（医学部教授）、伊良波繁雄（工学部教授）、玉城政信（農学部教授）、西本裕輝（大学教育センター准教授）

○列席者：平啓介（研究・国際交流担当理事）、大濱善秀（地域連携推進課長）、照屋智（地域連携推進課課長代理）、玉城優里（地域連携推進係 係員）

始めに、井上委員長より、前回委員会の議事内容について確認があり、議事に対して意見・訂正等があれば、後ほど地域連携推進課へ連絡するよう発言があった。

◆平成22年度年度計画の推進について、井上センター長より資料1に基づき次のとおり説明があった。

プロジェクトシートNo.29（中期目標No.9、中期計画No.29）については当センターが実施組織として担当するのでこれについては本委員会に取りまとめて実施・報告していくという流れになる。平成22年度計画には、学習機会の提供に関する方策の策定とセンター機能の見直しが掲げられているが、これをどのように推進していくかについて、運営委員会でも協議する必要がある。

また、センター機能の見直しについて、平理事より次のとおり補足説明があった。

センター機能の見直しについては、理事・副学長を中心とした検討委員会を立ち上げ、全学的な視野での組織見直しを検討している。様々なことを勘案しなければならず、見直しの方向性や詳細は未定だが、実現可能な範囲で長期的な計画を検討している。

審議の結果、学習機会の提供方策については、これまで実施してきた事業の見直しまたは中期計画

の達成点（意図）等を踏まえ、次年度以降どう実施するかを方策という形で改めて検討していくこととなった。また、センター機能の見直しについては、理事・副学長の検討委員会における協議だけでなく、これまでのセンターの活動の中での事業見直しについても併せて検討していくということでも了承された。

◆生涯学習教育研究センター運営委員の協力の在り方について、井上センター長より次のとおり説明があった。

前回の委員会で、作業部会の実態や意義が見えないとの意見があった。このことについては、センター機能の見直しと連動しているため、全学的な動きの中でのセンターの動向を見据えながら、また、運営委員の先生方から意見を伺いながら検討していく予定である。

また、青木委員より、運営委員に事業の実務的な関与を求めるのは負担が大きすぎるということおよび運営委員会はあくまでも審議機関であるとの意見が述べられた。

運営委員の協力の在り方については、今後、時期を見て改めて井上センター長より提案することでも了承された。

◆平成21年度予算執行報告および平成22年度予算配分案について、大濱地域連携推進課長より資料2に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

また、井上センター長より、公開講座を担当した教員への謝金やインセンティブ等について、センター機能の見直しも含めて検討していく必要がある旨、発言があった。

◆生涯学習教育研究センター研究紀要の発行について、後藤講師より資料3に基づき次のとおり報告があった。

5月にセンター研究紀要第4号を発行した。8編の投稿のうち7編を採用とし、報告が2編、論文が5編という構成となっている。また、今回より編集委員会を正式に立ち上げ、紀要の発行にあたり作業をしていただいた吉田委員、西本委員にお礼が述べられた。また、井上センター長より、センター研究紀要を名実共に質の高いものにするため、センター機能の見直しも含め、今後の意見交換の中で議論していきたいとの発言があった。

◆平成22年度センター事業の進捗状況について

①平成22年度公開講座・公開授業の実施状況について、背戸教授より資料4-1に基づき次のとおり報告があった。

公開講座については順調に進んでいる。また、公開授業の平成22年度の実績については、現時点では前期分だけの報告となっているが、後期も含めると大幅に受講者数・開放授業数が増加すると思われる。昨年度から試行している定額料金制度が機能し始めたということだと理解している。

②センター企画公開講座について、後藤講師より資料4-2～資料4-4に基づき次のとおり報告があった。

八重山講座「知のふるさと納税」について、本学の八重山関係教職員の会の方々に昨年度の事業

報告を行うとともに、データベースの作成を依頼しているところである。今後は、このデータベースに基づき、現地ニーズとのマッチングを行い、講座を企画していく予定である。また、高大連携事業についてもこのデータベースを活用していきたいと考えている。

また、強化テーマについては「環境」をテーマに掲げており、企画等について観光産業科学部の伊波教授と協議しながら進めているが、その中で、エコアクション21との兼ね合いで学習講座が提供できるのではないかと伊波教授より提案があった。具体的には、専門的な内容で学生のインターンシップも含むような講座（エコアクション21大学イニシアチブプログラム）と、環境に対する意識啓発を目的とした一般向けの講座の二本立てを考えている。その点について、7月に来沖するエコアクション21東京事務局の方とも協議をしながら企画し、10月以降に講座を開催する予定である。

また、伊波教授より、エコアクション21大学イニシアチブプログラム（教育＋人材育成＋地域貢献事業）について、エコアクション21事務局から本学がモデルとなって実施して欲しいとの依頼があったこと、講座にかかる費用については先方の負担となるとの補足説明があった。

◆第50回琉大21世紀フォーラムについて、井上センター長より資料5に基づき報告があり、運営委員にもぜひ参加して欲しい旨、依頼があった。

次回の運営委員会（9月末～10月開催予定）においても、11月の中間報告に向けて22年度計画の進捗状況に関して審議する必要があるため、後日改めて会議の日程調整を行うこととなった。

以上